

第24回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムを終えて

実行委員長 若槻壮市 (KEK-PF)

実行副委員長 中尾裕則 (KEK-PF)

第24回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムは、2011年1月7日から10日まで、4日間にわたり、つくば国際会議場において開催されました。最終的に、参加者653名、懇親会参加者320名となり、過去最高の参加者となりました。加えて、関係者の努力によりまして、企業展示も53社の出展となり、盛大にシンポジウムを執り行うことができました。

メインの特別講演では、まず東大工応用化学の藤田誠先生に「放射光 X 線解析が支える自己組織化巨大分子の科学」と題して講演頂きました。研究開始当時の X 線回折実験の状況から、現在の研究に至るまでの道筋をわかりやすく説明頂きました。次に、アリゾナ州立大/ローレンス・バークレー国立研究所の John Spence 先生に、「Femtosecond nanodiffraction using a hard X-ray laser toward the molecular movie.」と題して、最新のスタンフォード LCLS でのフェムト秒ナノ領域回折実験の現状を講演頂きました。恒例の学会奨励賞受賞講演では、信州大 福田勝利博士に「全反射を利用する放射光 X 線分析によるナノシートの新しい構造解析法の開発と応用」、分子研 松波雅治博士に「光電子分光と光反射分光を組み合わせた強相関電子系の研究」と題して、講演頂きました。それぞれ、受賞講演に相応しい最先端の研究成果をご紹介頂きました。また本学会の企画講演は、当初13件もの応募がありまして、プログラム委員長の指揮のもと異例ともいえる、複数の類似の企画の融合を画策し、より内容の濃い企画講演変更する作業が行われ、多くの要望を取り入れた企画講演を6件(『XFEL プロジェクトこの一年―夜明け前：スタートする XFEL の利用―』、『ERL プロジェクトの現状とその利用への期待』、『最先端放射光計測技術による新規電池材料の研究開発』、『生命現象のイメージング』、『次世代放射光に向けた装置開発と利用研究～放射光実験用検出器と超高速現象の研究～』、『X 線光学素子と X 線イメージング法の新展開』) 行うこととなりました。ということで、如何でしたでしょうか？ それぞれ、数多くの方が聞きに来られていましたし、熱い議論も多々ありました。一般講演、ポスター発表も、多いに盛り上がっていました。また、今回のポスター会場は、放射光学会会長の強い意向によって、ポスターの列と列の間に企業展示を入れる形としました。お陰で顔見知りの企業の方と頻りに顔を合わせる事になりましたか？ 企業の方にも聞いて見たところ、この形式での出展は概ね好評でした。

また本年会に合わせて、日本放射光学会市民公開講座



写真1 特別講演：藤田誠先生



写真2 一般講演のスナップ



写真3 ポスター発表会場

「放射光で迫る 物質・生命の謎」を開催いたしました。事前の、高校・中学関係への広報活動や、駅・ショッピングセンターでのポスターの掲載、各種情報誌への案内の掲載、最後のひと押しで1月5日にNHK テレビでの放射光学会会長による宣伝を行ったことで、多数の方に参加頂くことができました。内容としましては、最初に放射光学会会長の 尾嶋正治先生に 日本放射光学会の取り組みとして



写真4 懇親会全景



写真6 市民公開講座



写真5 懇親会での鏡割り

「放射光で見る物質のしくみ」という講演を頂きました。数多くの動画を使った講義で、一般の方には、わかりやすかったように思います。次に、KEKの浦川順治先生に「社会に役立つ放射光科学と加速器技術の最前線」という題で、加速器技術についてわかりやすく説明頂きました。続いて、グリーン・ライフイノベーションということで、電気通信大の岩澤康裕先生に「放射光が解き明かす環境

・エネルギー・グリーン化学の課題」、持田製薬の西島和三先生に「新しい薬の創造に貢献する放射光」と題して講演頂き、放射光を用いた最先端の研究成果を発表頂きました。参加された方々は、大変興味を持って聞かれていたようで、熱心な質問が数多くなされておりました。

放射光学会の懇親会は、例年、会場までの移動と会場に到着後のクロークの行列が最近印象的でした。そこで今回は、新しい試みとして場所を変えず国際会議場内での懇親会の開催を試みました。300名を越える人数を収容するスペースをどうするか検討した結果、国際会議場の1階エントランスホールを貸し切ることで、いつもと違う雰囲気での懇親会が開催できました。参加された方々も、楽しんでいたようです。

このように、大盛況のうちにシンポジウムを終えることが出来ました。これは、実行委員会、プログラム委員会、組織委員会、放射光学会事務局、アルバイトの学生さん、エポカルの方々、それぞれのご協力があり、出来たことです。この紙面を借りまして、お礼申し上げます。来年は、ゆっくりと佐賀を楽しみたいところです。